

MGC

2024年度 第3四半期
決算説明資料

 三菱ガス化学株式会社

2025年2月13日

証券コード

4182



1 | 2024年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別業績概要

3 | 業績予想

はじめに「2024年度 第3四半期 決算概要」
続いて「セグメント別 業績概要」
最後に「業績予想」という順でご説明いたします。

1 | 2024年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

はじめに「2024年度 第3四半期 決算概要」についてご説明いたします。

2024年度 第3四半期 業績サマリー



売上高:株式会社JSP の持分法適用会社化により減収

営業利益:JSPの持分法適用会社化等が減益要因となるも、機能化学品事業の損益が全般的に前年同期を上回ったことや、円安により増益

経常利益:メタノール市況の上昇等により持分法損益が改善したことなどから増益

四半期純利益:三菱エンジニアリングプラスチックス株式会社(MEP)の連結化に伴う段階取得差益の剥落(約▲150億円)等により減益

単位:億円	2023年度 3Q累計	2024年度 3Q累計	増 減	
			金額	%
売上高	6,217	5,831	▲385	▲6.2
営業利益	386	452	+66	+17.2
持分法利益	14	73	+58	+412.9
経常利益	434	538	+104	+24.1
親会社株主に帰属する四半期純利益	400	356	▲44	▲11.1
一株当たり四半期純利益(円/株)	196.18	178.18		
為替レート(JPY/USD)	143	153		

※ 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

4ページをご覧ください。

2024年度 第3四半期業績の サマリーを示しております。

売上高は、JSP の持分法適用会社への異動が減収要因となりました。

営業利益は、同じくJSPの持分法適用会社への異動が減益要因となりましたが、機能化学品事業の損益が全般的に前年同期を上回ったことや、円安の効果などにより、増益となりました。

経常利益は、メタノール市況の上昇等により海外メタノール生産会社の持分法損益が改善したことなどから、増益となりました。

四半期純利益は、三菱エンジニアリングプラスチックス(株)、以降MEPと呼ばせていただきます、そちらの連結化に伴う段階取得差益の剥落などにより、減益となりました。

2024年度 第3四半期 営業外損益・特別損益



単位:億円	2023年度 3Q累計	2024年度 3Q累計	増 減	
営業外損益	47	85	+38	
持分法による投資損益	14	73	+58	持分法損益 +58
金融収支	23	23	▲0	GEC +57
為替差損益	23	2	▲21	機能化学品 +0 等
その他	▲14	▲13	+0	
特別利益	202	23	▲178	
補助金収入	8	12	+3	
投資有価証券売却益	28	8	▲19	
段階取得に係る差益	150	-	▲150	段階取得に係る差益 ▲150
その他	14	1	▲12	前年同期に計上されたMEP*の連結化に伴う段階取得差益が剥落
特別損失	▲48	▲43	+4	* 三菱エンジニアリングプラスチックス株式会社
損害補償損失	-	▲21	▲21	損害補償損失 ▲21
固定資産圧縮損	▲7	▲9	▲2	・電子材料関連
事業構造改善引当金繰入額	-	▲7	▲7	・芳香族化学品関連
減損損失	▲8	▲1	+6	
関係会社株式売却損	▲28	-	+28	
その他	▲4	▲3	+1	
特別損益合計	153	▲20	▲174	

※ 本表の増減は対損益増減を示しております。

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 5

5ページでは、営業外損益、特別損益の内訳を示しております。

主な差異要因についてご説明いたします。

まず営業外損益につきまして、

持分法損益は、先ほどご説明のメタノールJVの改善に加え、JSPが今期より持分法適用となっており、ここでその利益分の増加もございまして、グリーン・エネルギー&ケミカル事業部門（GEC事業部門）で、+57億円の増益となっております。

続いて特別損益ですが、

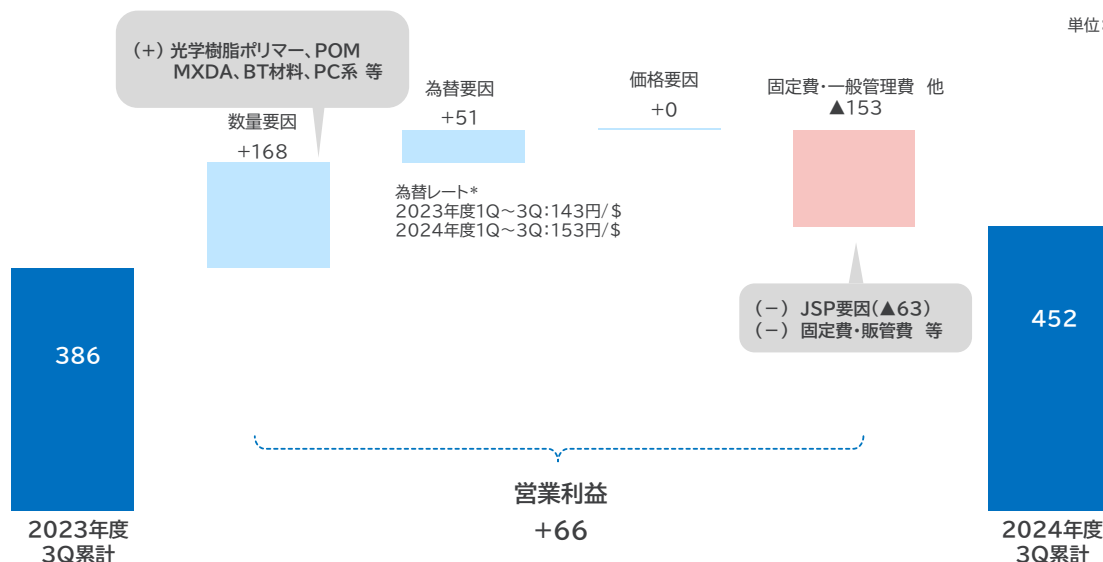
特別利益は、MEPの段階取得差益150億円の剥落により、前年同期比では大きくマイナスとなっております。

特別損失は、今期「損害補償損失」を電子材料および芳香族化学品関連で計21億円を計上しております。

2024年度 第3四半期 営業利益 増減要因(前年比)



単位:億円



* 為替感応度 (USD概算):1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益6億円/年の減益(増益)
(EUR概算):1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)

6ページは 2024年度 第3四半期の営業利益の増減要因を、前年同期との比較で示しております。

数量要因は、光学樹脂ポリマーやポリアセタール、MXDA、BT材料、ポリカーボネートなどを中心に販売数量が回復し、168億円のプラスとなりました。

為替要因は、円安効果によって51億円のプラスと計算しております。

固定費・一般管理費等は、成長投資に伴う償却費の増加、ならびに新潟、水島等の大定修に伴う修繕費の増加などによって、153億円のマイナスとなりました。なお、JSPの持分法適用会社化の影響も、このマイナス153億の中に含めて記載をしております。

1 | 2024年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

続いて、セグメント別業績概要をご説明します。

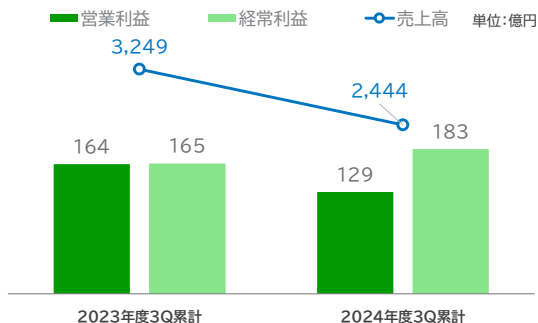
2024年度3Q累計実績

売上高、営業利益:

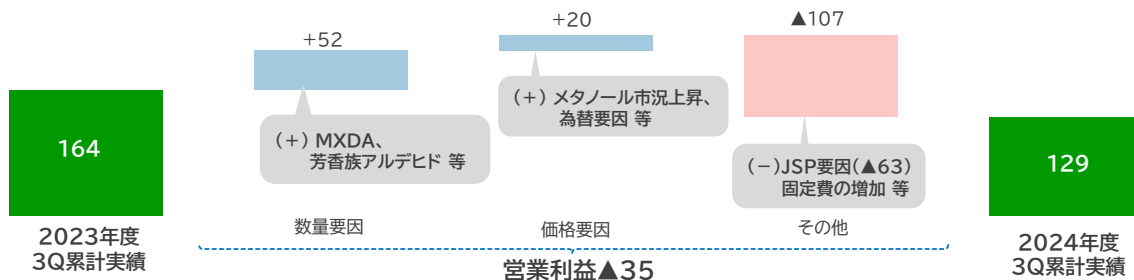
JSPの持分法適用会社化により減収減益。JSPの要因を除くと、MXDA、芳香族アルデヒドの販売数量増加、メタノール市況上昇、エネルギー資源・環境事業における発電用LNGの販売増加、ヨウ素の市況上昇などにより増収増益

持分法損益:

海外メタノール生産会社の持分法利益の改善、JSP持分法利益の増加などにより増益



【営業利益差異要因】



8ページでは、GEC事業についてご説明いたします。

第3四半期実績について、売上高はJSP要因で減収、営業利益も同じく減益となりました。なお、JSP要因を除きますと、MXDAなどの販売数量増加や、メタノール市況の上昇、ヨウ素の販売好調・市況上昇などにより、増収増益となっております。

経常利益につきましては、海外メタノール生産会社や持分法適用としてのJSPの利益がここで寄与しまして、増益となっております。

下段には、前年同期比での営業利益差異要因を、滝グラフで示しております。後ほど、ご参照願います。

単位:億円	2023年度 3Q累計実績	2024年度 3Q累計実績	増減
売上高	3,249	2,444	▲805
天然ガス系化学品	1,520	1,747	+226
芳香族化学品	1,753	703	▲1,049*
調整	▲24	▲6	+17
営業利益	164	129	▲35
天然ガス系化学品	57	76	+18
芳香族化学品	107	53	▲54*
調整	▲0	▲0	▲0
経常利益	165	183	+18
天然ガス系化学品	52	104	+52
芳香族化学品	113	79	▲34*
調整	▲0	▲0	+0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

* JSPの連結子会社から持分法適用会社への異動による影響
売上高▲1,024、営業利益▲63、持分法利益+22

三菱ガス化学株式会社

		2024年度3Q累計実績 (2023年度3Q累計実績比)	
天然ガス系化学品	メタノール	➡	市況が前期に比べ上昇したことなどから増収増益 (前期304ドル→今期332ドル)
	メタノール・アンモニア系化学品	➡	主にMMA系製品の販売数量は回復傾向も、修繕費の増加等により前年同期並みの損益
	エネルギー資源・環境	➡	発電用LNGの販売数量の増加や、ヨウ素の販売数量増加・市況上昇等により増収増益
芳香族化学品	MXDA* 芳香族アルデヒド ポリマー材料 *誘導品含む	➡	欧米向け需要は回復傾向も、中国向け製品の販売数量減少や、固定費・販管費の増加等により減益
	キシレン分離/ 誘導品	➡	高純度イソフタル酸の市況は低迷が継続しているものの、円安等もあり前年同期比では増益

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 9

9ページでは、GECの第3四半期実績について、前年同期比での業績動向を、主要事業別に示しております。

メタノールは、市況上昇により増益となりました。

メタノール・アンモニア系化学品は、MMA系製品の販売数量は回復基調でしたが、大定修に伴う修繕費の増加などにより、前年同期並みの損益となりました。

エネルギー資源・環境事業は、発電事業向けのLNGの販売数量の増加や、ヨウ素の販売数量増加・市況上昇等により、増収増益となりました。

MXDAおよびその誘導品につきましては、MXDA、芳香族アルデヒドの欧米向けの需要は回復基調にあり、増益に寄与したものの、誘導品である1,3-BACの販売が中国向けの需要低迷により減少したことや、成長投資に伴う固定費・販管費の増加もあり、こちらのサブセグメントのトータルでは減益となっております。

2024年度3Q累計実績

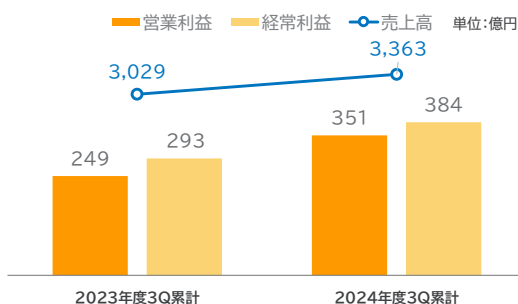
売上高、営業利益:

スマートフォン向け光学樹脂ポリマーや先端半導体向け製品(ハイブリッドケミカル、OPE®)の販売数量の増加に加え、エンジニアリングプラスチックの採算改善、脱酸素剤の収益拡大もあり、増収増益

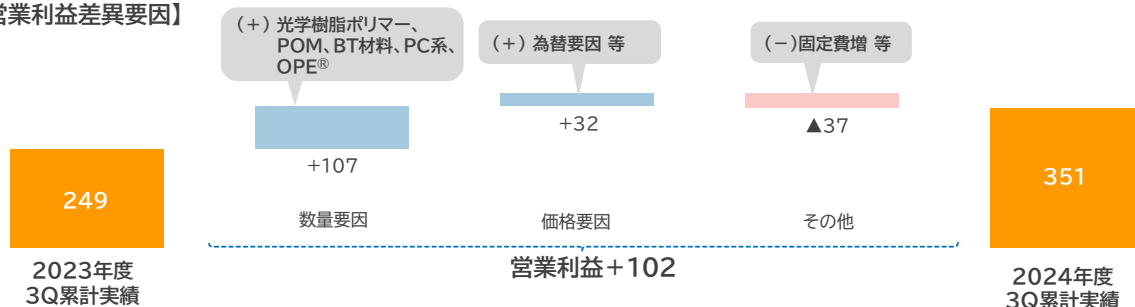
四半期純利益:

MEP*の連結化に伴う段階取得差益の剥落(約▲150億円)などにより減益

*三菱エンジニアリングプラスチック株式会社



【営業利益差異要因】



10ページでは、機能化学品事業についてご説明いたします。

第3四半期実績について、冒頭の業績サマリーで申し上げましたとおり、機能化学品事業の損益は全般的に前年同期を上回り、営業利益は増益となりました。

従いまして、事業別の業績動向をご説明させていただきますので、11ページにお移りください。こちらで、主に主要事業別の動向をご説明してまいります。

下段の滝グラフは、後ほどご参照願います。

機能化学品



単位:億円	2023年度 3Q累計実績	2024年度 3Q累計実績	増減
売上高	3,029	3,363	+334
機能化学品	2,561	2,816	+254
特殊機能材	468	547	+78
調整	▲0	▲0	+0
営業利益	249	351	+102
機能化学品	152	238	+86
特殊機能材	97	113	+16
調整	0	0	▲0
経常利益	293	384	+91
機能化学品	182	258	+75
特殊機能材	110	126	+16
調整	0	0	▲0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

三菱ガス化学株式会社

		2024年度3Q累計実績（2023年度3Q累計実績比）	
機能化学品	無機化学品	➡	半導体向け薬液において、高機能メモリ向けに使用されるハイブリッドケミカルなどの販売数量が増加したことから、増収増益
	エンジニアリングプラスチック	➡	OA機器向けなどで販売数量が増加したことに加え、製造コストの改善等もあり、増収増益
	光学材料	➡	スマートフォンカメラの高機能化トレンドや新興国向け需要の増加等により、光学樹脂ポリマーの販売数量が増加し増収増益
特殊機能材	電子材料	➡	主力の半導体パッケージ用BT材料において、スマートフォン向け材料の販売が堅調であったことに加え、AIサーバー向け基板材料OPE®の販売数量が増加したことから増収増益
	脱酸素剤	➡	円安による輸出価格改善や海外向け販売数量の増加により増収増益

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 11

11ページは、機能化学品の第3四半期実績について、前年同期比での業績動向を、主要事業別に示しております。

無機化学品は、半導体市場の回復には遅れがみられるものの、高機能メモリ向けの薬液であるハイブリッドケミカルなど、先端半導体向け薬液の販売が増加し、増益となりました。

エンジニアリングプラスチックは、主要製品であるポリカーボネート、ポリアセタールそれぞれにおいて、OA機器向けなどで需要が回復したことや、高付加価値品の販売増、製造コストの改善などにより、増益となりました。

光学材料については、スマートフォンカメラの高機能化トレンドが継続しているほか、新興国向けの需要の増加等もあり、増益となりました。

電子材料は、無機化学品同様、半導体市場の回復は遅れておりますが、AIサーバー向け基板材料であるOPE®の販売の増加などにより、増益となりました。

脱酸素剤についても、輸出価格の改善や、海外向け販売の増加などにより増益となっております。

1 | 2024年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

最後に、業績予想についてご説明します。

2024年度通期 業績予想



— 前回予想を据え置き、営業利益560億円、経常利益630億円を予想

単位:億円	2024年度 前回予想*1	2024年度 今回予想	増 減		2023年度 実績
			金額	%	
売上高	7,700	7,700	-	-	8,134
営業利益	560	560	-	-	473
経常利益	630	630	-	-	460
親会社株主に帰属する当期純利益	480	480	-	-	388
*1 2024年11月8日公表					
一株当たり当期純利益(円/株)	243.10	241.61			190.97
ROE (%)	7.3	7.3			6.1
ROIC*2 (%)	6.8	6.7			3.3
為替レート(JPY/USD)	149	152			145

*2 ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本

13ページは2024年度通期 業績予想の概要を示しております。

前回予想据え置き、売上高7,700億円、営業利益560億円、経常利益630億円としております。

ただし、例年通り、個別事業ごとには見直しを実施いたしましたので、次ページ以降で、今回の業績予想のポイントにつきましてご説明いたします。

－ 前回予想を据え置き

主な増減要因

- (－) 電子材料(BT材料)の販売数量下振れ、及び顧客品質対応の強化によるコスト増加
- (－) 無機化学品(EL薬品)の販売数量下振れ
- (＋) エンジニアリングプラスチック(PC、POM)の採算改善
- (＋) 為替要因*、一般管理費の減少

* 通期予想(JPY/USD:前回予想149 → 今回予想152)

■ 為替前提(未経過月): 1ドル150円(前回予想より5円の円安)、1ユーロ160円(前回予想より5円の円安)

(為替感応度(USD、概算):1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益6億円/年の減益(増益)

(EUR、概算):1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)

■ 原油価格前提(未経過月): 75ドル/bbl. (前回予想比5ドル/bbl. の下落)

(原油感応度(USD、概算):1ドル/bbl.の上昇(下落)で、2.5億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず)

14ページに、通期業績予想のポイントを示しております。

主な増減要因について、

電子材料は、BT材料については需要の回復遅れに伴う販売の下振れを見込んでおります。また、製造子会社では顧客向けの品質対応の強化に伴いコスト増が発生しております。こちらも織り込んでおりますので、減益となっております。

無機化学品のEL薬品につきましても、先端向け薬液を除き、半導体需要の回復の遅れが続くということを見込んで、販売については前回予想を下回る見通しといたしました。

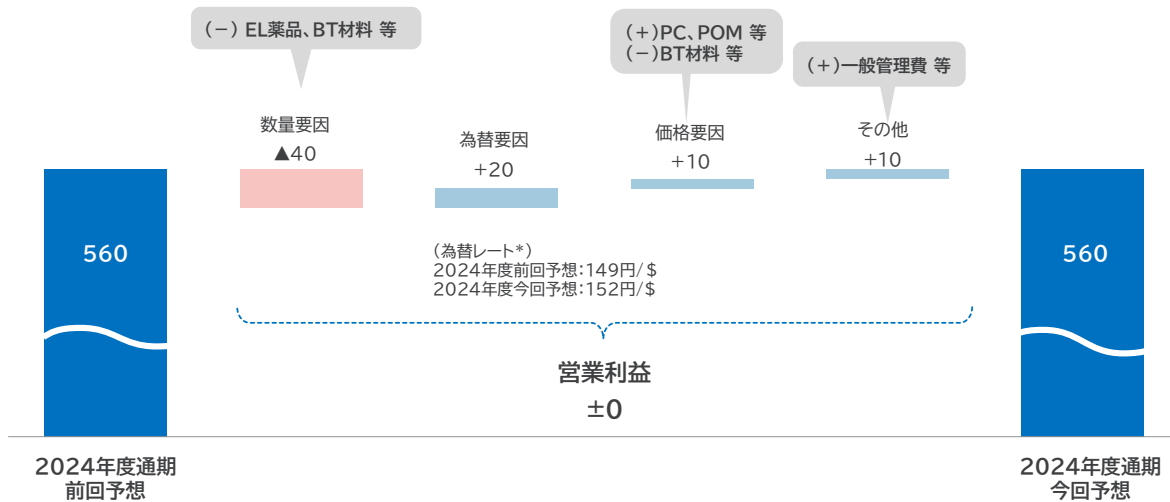
一方、エンジニアリングプラスチックですが、ポリカーボネートについては、中国拠点における高付加価値品の販売が好調であることや、原料コストの改善が見られることなどによりまして、前回予想を上回る見通しでございます。ポリアセタールも、採算改善を見込んでおります。

その他、為替の要因、一般管理費等の減少も見込んで差し引き据え置きとなりました。

2024年度 通期 営業利益 増減要因(前回予想比)



【単位:億円】



* 為替感応度 (USD概算): 1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益6億円/年の減益(増益)
(EUR概算): 1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)

15ページは、前回予想比での、営業利益増減要因を、滝グラフで示しております。
後ほど、ご参照願います。

【グリーン・エネルギー&ケミカル(GEC)】

- メタノール: 供給側の冬季の稼働減(天然ガス供給制限)もあり、市況は345ドルへの上昇を予想(3Q:329ドル)
- MXDA、芳香族アルデヒド:MXDAの欧州向け需要などは改善傾向だが、4Qは水島工場の固定費増加等もあり、減益の予想

【機能化学品】

- 無機化学品:高機能メモリ向けのハイブリッドケミカルは堅調も、その他需要の回復は力強さに欠ける見通し
- PC:中国、タイ拠点の高付加価値品の販売は堅調である一方、汎用品のスプレッドは低迷が継続。固定費増加等を織り込み、減益を予想
- POM:市況の軟化が懸念されるも、引き続き堅調な収益を見込む
- 光学樹脂ポリマー:スマートフォン向け需要は引き続き堅調に推移する見通し
- 電子材料:BTは汎用品や一部メモリー分野の回復を見込む他、OPE®もAIサーバー向けを中心に引き続き堅調な需要を予想

16ページは、第4四半期の営業利益の見通しについて、第3四半期からの変化を示しております。

メタノール市況は、345ドルを想定しており、第3四半期からやや上昇の見通しです。

MXDAや芳香族アルデヒドは、MXDAの欧州向け需要は引き続き回復基調とみているものの、第4四半期は水島工場の定修に伴う固定費増加等もあり、減益を予想しております。

無機化学品のEL薬品は、ハイブリッドケミカルなどは堅調ですが、その他需要の回復は、依然、力強さに欠ける状況とみております。

エンプラについて、ポリカーボネートは中国・タイ拠点の高付加価値品の販売は引き続き堅調を見込みますが、汎用品はスプレッド低迷が継続するとみております。第4四半期は工場の固定費の増加を織り込み、減益の予想です。

ポリアセタールは市況の軟化が懸念されますが、高付加価値品の販売も含め、引き続き堅調な収益を見込んでおります。

光学樹脂ポリマーは春節影響も予想されるものの、足元の需要予測に基づき3Q並みの堅調な販売を見込んでおります。

電子材料は、BT材料において汎用品や一部メモリー分野の販売増を見込むほか、OPE®についても、AIサーバー向けを中心に引き続き堅調な需要を予想しております。

以上、Q3実績累計および今期予想に関するご説明となります。17ページ以降Appendixにつきましては、ご参照いただければと思います。よろしく願いいたします。

Appendix

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2023年度実績			2024年度(実績/前回予想)*			2024年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)	上期	下期(予)	通期(予)
売上高	3,996	4,137	8,134	3,881	3,818	7,700	3,881	3,818	7,700
GEC	2,094	2,034	4,128	1,639	1,641	3,281	1,639	1,657	3,297
機能化学品	1,941	2,150	4,092	2,229	2,178	4,407	2,229	2,169	4,398
全社/調整	▲39	▲47	▲86	12	▲1	11	12	▲8	3
営業利益	221	252	473	337	222	560	337	222	560
GEC	94	82	177	101	47	148	101	37	138
機能化学品	142	188	330	252	197	449	252	206	458
全社/調整	▲16	▲19	▲35	▲15	▲22	▲38	▲15	▲21	▲37
経常利益	249	210	460	374	255	630	374	255	630
GEC	74	26	101	142	84	227	142	67	210
機能化学品	178	207	386	258	194	453	258	202	461
全社/調整	▲4	▲23	▲27	▲27	▲22	▲50	▲27	▲14	▲42

* 2024年11月8日公表

参考：主要製品群(旧セグメント)別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2023年度実績			2024年度(実績/前回予想)*			2024年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)	上期	下期(予)	通期(予)
売上高	3,996	4,137	8,134	3,881	3,818	7,700	3,881	3,818	7,700
天然ガス系化学品	975	1,180	2,155	1,195	1,144	2,339	1,195	1,171	2,366
芳香族化学品	1,133	872	2,006	449	502	951	449	491	941
機能化学品	1,648	1,803	3,452	1,866	1,773	3,640	1,866	1,787	3,654
特殊機能材	293	347	640	362	405	767	362	382	744
全社/調整	▲55	▲65	▲120	7	▲6	1	7	▲14	▲7
営業利益	221	252	473	337	222	560	337	222	560
天然ガス系化学品	41	44	85	77	32	109	77	25	102
芳香族化学品	53	37	91	23	14	38	23	12	36
機能化学品	88	105	194	172	97	269	172	126	298
特殊機能材	53	83	136	79	100	180	79	79	159
全社/調整	▲16	▲18	▲35	▲15	▲22	▲38	▲15	▲21	▲36
経常利益	249	210	460	374	255	630	374	255	630
天然ガス系化学品	18	▲18	0	110	60	171	110	41	152
芳香族化学品	56	44	101	32	23	55	32	25	58
機能化学品	116	118	234	168	92	261	168	128	297
特殊機能材	61	89	151	89	101	191	89	74	163
全社/調整	▲4	▲23	▲28	▲26	▲23	▲50	▲26	▲15	▲42

※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

* 2024年11月8日公表

セグメント別 2023年度及び2024年度 四半期別推移



単位:億円	2023年度				2024年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q(予)
売上高	1,870	2,126	2,220	1,916	1,881	2,000	1,950	1,868
GEC	1,019	1,074	1,155	878	783	855	804	852
機能化学品	872	1,069	1,087	1,062	1,092	1,136	1,134	1,035
全社/調整	▲21	▲17	▲22	▲24	4	8	10	▲19
営業利益	62	158	165	86	157	180	115	107
GEC	32	62	69	12	41	60	28	9
機能化学品	35	106	107	81	126	126	99	106
全社/調整	▲5	▲10	▲11	▲7	▲9	▲6	▲12	▲8
経常利益	70	179	184	26	179	194	164	91
GEC	20	54	90	▲63	45	97	41	26
機能化学品	47	131	114	93	139	119	126	76
全社/調整	2	▲6	▲20	▲3	▲5	▲22	▲2	▲11

参考：主要製品群別 2023年度及び2024年度 四半期別推移



単位:億円	2023年度				2024年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q(予)
売上高	1,870	2,126	2,220	1,916	1,881	2,000	1,950	1,868
天然ガス系化学品	492	483	545	634	565	629	552	619
芳香族化学品	535	598	619	253	220	228	254	237
機能化学品	735	913	912	890	910	956	949	838
特殊機能材	136	156	175	171	182	179	184	197
全社/調整	▲29	▲25	▲31	▲34	1	5	9	▲23
営業利益	62	158	165	86	157	180	115	107
天然ガス系化学品	18	22	16	28	27	49	▲0	25
芳香族化学品	13	39	53	▲15	13	10	29	▲17
機能化学品	16	72	63	41	84	88	66	60
特殊機能材	18	34	43	39	41	38	33	46
全社/調整	▲6	▲10	▲11	▲7	▲9	▲6	▲13	▲8
経常利益	70	179	184	26	179	194	164	91
天然ガス系化学品	5	12	33	▲51	26	83	▲5	47
芳香族化学品	15	41	57	▲12	17	14	46	▲21
機能化学品	24	92	65	52	90	78	89	39
特殊機能材	22	39	48	41	49	40	36	37
全社/調整	2	▲6	▲20	▲3	▲4	▲22	▲3	▲11

※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 21

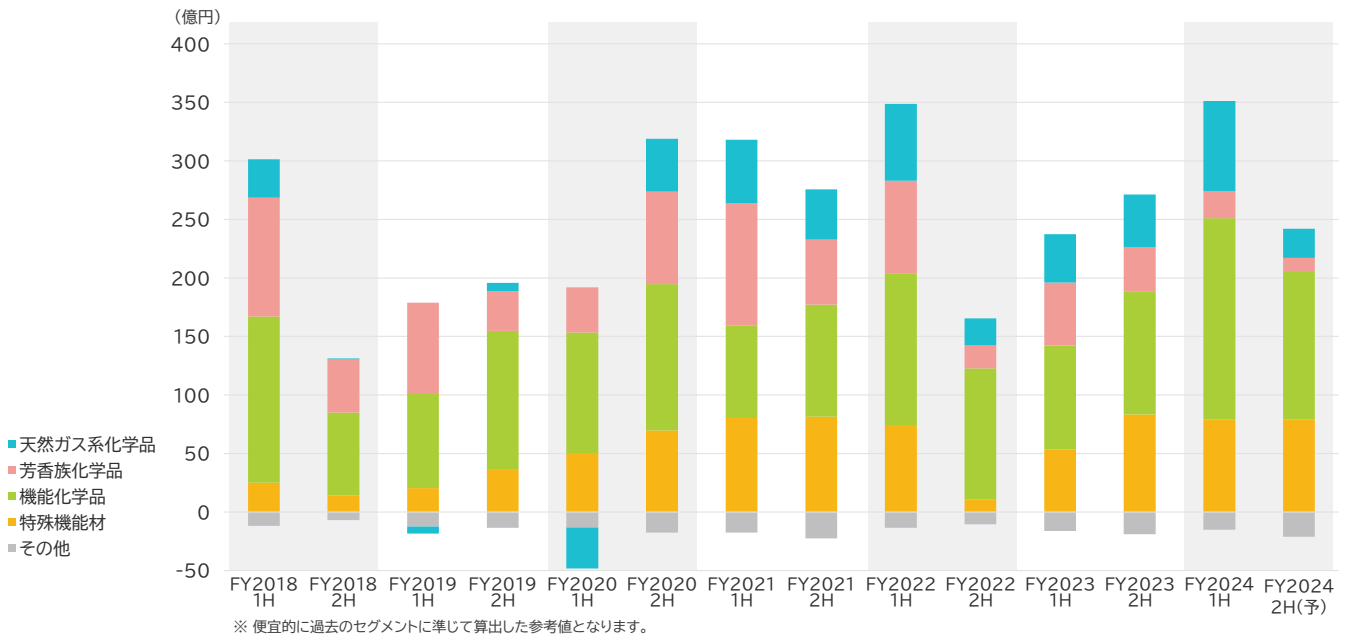
2024年度 第3四半期 貸借対照表



単位:億円	2024年3月末	2024年12月末	増 減
流動資産	4,631	4,789	+158
現預金	714	718	+4
売掛債権	1,656	1,678	+21
棚卸資産	2,005	2,093	+88
その他	255	298	+43
固定資産	6,048	6,459	+410
有形固定資産	3,146	3,543	+397
無形固定資産	248	253	+4
投資その他の資産	2,653	2,661	+8
資産合計	10,680	11,248	+568

単位:億円	2024年3月末	2024年12月末	増 減
負債	3,831	4,228	+396
買掛債務	1,090	1,102	+12
有利子負債	1,730	2,100	+370
その他	1,011	1,024	+13
純資産	6,848	7,020	+172
株主資本	5,876	5,987	+110
その他包括利益累計額	701	733	+32
非支配株主持分	270	299	+28
負債・純資産合計	10,680	11,248	+568

参考：主要製品群別 営業利益推移



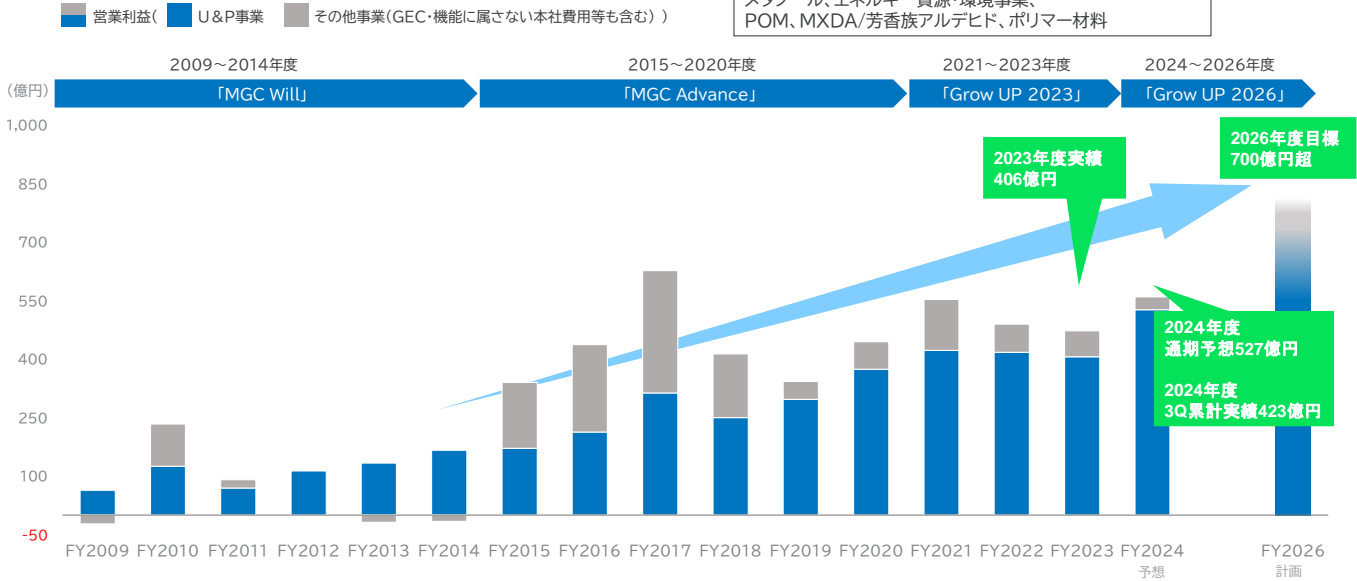
参考: Uniqueness & Presence (U&P)事業の営業利益推移



成長ドライバーであるICT3事業を中心に、現中計期間に再拡大

U&P事業・中計「GrowUP2026」において経営資源を優先的に配分すべきと評価した以下の事業

電子材料、無機化学品(EL薬品等)、光学材料、メタノール、エネルギー・資源・環境事業、POM、MXDA/芳香族アルデヒド、ポリマー材料



参考：各種指標（1）



単位：億円	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (予)
設備投資額	305	350	309	392	423	402	547	646	817	920
[3Q累計]	[226]	[241]	[232]	[287]	[321]	[267]	[416]	[490]	[626]	[629]
減価償却費	267	256	270	274	295	306	319	335	363	340
[3Q累計]	[198]	[188]	[200]	[203]	[219]	[226]	[239]	[249]	[282]	[255]
研究開発費	189	192	189	186	196	199	210	235	256	265
[3Q累計]	[137]	[142]	[142]	[138]	[140]	[149]	[156]	[171]	[193]	[192]
年度末人員(人)	8,176	8,034	8,009	8,276	8,954	8,998	9,888	10,050	7,918	8,190
EBITDA*1	746	894	1,088	976	616	817	1,070	1,050	849	967
U&P事業 営業利益	171	213	314	250	297	374	423	418	406	527
ROA(総資産経常利益率)(%)	5.9	8.4	10.6	8.7	3.9	6.2	8.4	7.1	4.4	5.7
ROE(自己資本当期利益率)(%)	9.0	12.0	13.6	11.3	4.3	7.1	8.8	8.3	6.1	7.3
ROIC(投下資本利益率)*2(%)	7.0	9.6	12.1	9.5	3.6	6.2	7.4	6.4	3.3	6.7
売上高営業利益率(%)	5.7	7.9	9.9	6.4	5.6	7.5	7.8	6.3	5.8	7.3
一株当たり当期純利益 (円/株)	153.8 5	221.83	281.39	257.46	100.50	173.41	232.15	239.08	190.97	241.61
一株当たり配当金*4(円/株) [うち中間配当]	32.00 [16.00]	38.00 [16.00]	59.00 [24.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	80.00*3 [45.00*3]	80.00 [40.00]	80.00 [40.00]	95.00 [45.00]
総還元性向 (%)	42.5	30.1	32.5	27.2	111.4	40.4	34.5	47.9	67.5	70.3

*1 EBITDA=経常利益+減価償却費+支払利息 *2 ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本 *3 記念配当10円を含む

*4 当社は2016年10月1日に株式併合(2株→1株)を実施しております。一株当たり当期純利益および配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 25

参考：各種指標（2）



	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	4~12月実績	1~3月実績	4~12月実績	1~3月予想
為替(JPY/USD)	107	105	110	115	134	137	143	149	153	150
為替(JPY/EUR)	121	126	131	130	139	143	155	161	165	160
原油価格(Dubai) (US\$/bbl.)	37	52	69	87	102	83	83	81	79	75
メタノール (US\$/MT) アジアスポット平均価格	194	319	370	428	375	351	304	328	332	345
原料キシレン(US\$/MT)	420	560	780	875	1,105	925	930	930	830	765
ビスフェノールA (US\$/MT)*	900 ~1,450	1,400 ~3,300	2,750 ~3,700	2,100 ~3,150	1,450 ~2,200	1,250 ~1,700	1,150 ~1,400	1,250 ~1,300	1,200 ~1,350	1,200 ~1,300
ポリカーボネート (US\$/MT)*	1,500 ~2,150	2,100 ~4,000	3,100 ~4,050	2,650 ~3,650	1,950 ~2,900	1,800 ~2,200	1,650 ~1,900	1,700 ~1,850	1,650 ~1,900	1,650 ~1,800

* 期間中の最小値および最大値を記載

感応度(概算)

為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益6億円/年の減益(増益)
 為替(EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)
 原油(Dubai) : \$ 1/bbl.の上昇(下落)で、2.5億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず
 メタノール : メタノール市況\$ 1/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

報告セグメント	主要製品群	主要製品
グリーン・エネルギー &ケミカル (旧基礎化学品)	天然ガス系化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品、等) ・エネルギー資源・環境事業
	芳香族化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・MXDA、芳香族アルデヒド、ポリマー材料(MXナイロン等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸(PIA)等)
機能化学品	機能化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・無機化学品(EL薬品(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチック(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折レンズモノマー等)
	特殊機能材	<ul style="list-style-type: none"> ・電子材料(半導体パッケージ用BT材料等) ・脱酸素剤(エージレス®等)

見直しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部 IRグループ

TEL 03-3283-5041

URL <https://www.mgc.co.jp/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

